



地区目標 ロータリーに夢をもって行動しましょう!!

クラブテーマ 想像から行動へ～優しさ溢れる出会い (DEI) のクラブ～

- ◆点鐘：市村 清勝 会長 ◆ロータリーソング：我等の生業
◆司会：遠藤 直樹 S.A.A. ◆会場：山形グランドホテル



第2968回例会

令和5年 1月23日(月)

会長あいさつ

市村 清勝 会長



今日は2050年問題についてお話したいと思います。たった27年後の2050年、先進国では少子高齢化が進んで、特に日本では人口減少、超高齢化社会が進むと予測されています。当然、地方の過疎化はこれまで以上に進むこともほぼほぼ決定をしている状態

であります。岸田総理は「異次元の少子化対策を」ということで突然、方針を打ち出しました。世界の人口はというと、去年80億人を超えたと。それで、2050年ごろにはたぶん100億人に達するだろうといわれております。

日本も2020年10月、当時の総理大臣、菅首相は全世界に向けて力強く宣言をしました。わが国は2050年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロにすると。脱炭素社会実現に向けてことを発表いたしました。環境省はこんなことを言いました。「少なくとも100カ所の脱炭素先行地域を作る」と。そして「重点対策を全国津々浦々で実施をする」ということを言うておりました。でも現状、2021年現在で73%、約4分の3が化石燃料で今、電気を作っています。これだけやっている太陽光でさえ10%に満たないというのが現状です。

私ども建築業界ではこんなことを要求されているというふうに感じているのですが、1つは自家消費型の太陽光発電。ためて、発電して、ためて、自分の所で使う。それからZEB(ゼブ)・ZEH(ゼッチ)化誘導。ZEBというのはゼロ・エネルギー・ビルディング、ZEHというのはゼロ・エネルギー・ハウスかな、そういうのを作りなさいと。それから、住宅・建築物の省エネ特性の向上をしなさいというふうなことを今のところ努力義務として言われています。

そして、住宅の省エネ化では今まで見たこともないぐらいの補助金が出ています。1棟まるごと断熱リフォームをすると最大600万円。すばらしい大盤振る舞いだというふうに私は思っているのですが、うちでもやろうとしていますけれども、補助金というのは皆さんからたくさんお支払いいただいた税金であります。少しでも取り返すためにぜひ皆さんもお使いいただいてはよろしいんじゃないでしょうか。

幹事報告

安部 弘行 幹事

- 小関さんが6月で契約満了ということで、後任の那須さんが引き継ぐ予定であります。7月以降那須さんが事務局になりますので皆さん、よろしくお願いいたします。
- 1月25日水曜日6時より、パレスグランドールにおきましてIMの実行委員会が開催されます。関係者の方はご出席いただきますようよろしくお願いいたします。
- 秋口に新入会員で入られましたクリエイト礼文の大場さんは親睦・家族委員会、菅原産業の菅原さんは会報委員会の配属と決まりましたので、この場をお借りしてご報告申し上げます。

ニコニコBOX

〈1月23日〉

市村清勝会長／安達三千代さんを歓迎して

同じ山辺町民として、私の妻からもとても素晴らしい方だと聞いておりました。本日の卓話を楽しみにしておりました。ウクライナに対して私自身も何かをしてあげたいという気持ちがあります。

長澤裕二さん／1454回目の千歳山登山

千歳山に登り始めて10年目。今朝で1454回目の登山でございます。80代で1万回以上の常連が多い中で1500回未満ですからまだまだ新参者です。あと10年で3000回が目標です。健康に感謝してがんばりたいと思います。

渡辺隆博さん／渡辺包装株式会社50周年

弊社渡辺包装株式会社は本年で設立50周年を迎えることができました。これもひとえに皆さまのおかげでございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。これからも売れる商品を作り、売れる環境づくりを目指し、ビジネスサポート企業として頑張ってまいります。

委員会報告

親睦・家族委員会

会員13名、奥様12名、1月に誕生日を迎えられます。おめでとうございます。

会員卓話



ウクライナの医療支援について

安達 三千代 さん

〔認定NPO法人 I V Y 事務局長〕

ご紹介にあずかりましたアイビーの安達と申します。本日はウクライナの紛争と私どもの支援活動についてお話をさせていただくのですが、その前に I V Y (アイビー) という団体について話をさせていただきます。

設立の経緯ですが、1991年にタイにありましたカンボジア難民のキャンプに山形県人10人がツアーを組んで研修旅行に行ったというのが始まりでございます。旧名称は「国際ボランティアセンター山形」といって、今「I V Y」というのは、国際のインターナショナルとボランティアのVと山形のYが縮まって「I V Y」、ツタミたいな意味のアイビーというのを団体名にさせていただいています。

今、海外はイラク、バングラデシュ、スロバキアに事務所を置いて日本人駐在を配置しております。イラク事務所が最も大きくて、イラクとシリアの支援事業をたくさんやっております。紛争に巻き込まれた子どもたちや兵士としてわずかなお金で取られていく10代とか、その人たちに職業訓練をしたり、初等教育をしたりという活動もしたりしています。壊された学校を再建したり直したりする活動、それから先生の研修なんかもやっております。だいたい手掛けたのが20~30校ぐらいにはもうなってくるのではないかと思います。

あと、ミャンマーの避難民やバングラデシュのロヒンギャ難民といわれる人たちが半島部に難民キャンプを置いて生活しているので、その人たちへの食糧生産のための農業指導とか、それから地元の村の女性たちも貧しいので、市場を建設して野菜の共同出荷の指導などをさせていただいています。そういう活動が今 I V Y 全体の活動です。

地下なんですけど、病院とかもたくさん作られていて、今の私たちの活動場所はこういう地下病院になっているんです。ほぼ地下で入院生活を送っています。中には、チェルノブイリ原発事故があった影響でがんのお子さん結構多いんですね。この子たちも小児がんのお子さんなんですけど、この子たちもやっぱりその地下の病院にいたり、それから、西側の地方のほうにこういうがんの子どもたちが運ばれていたりするので、その人たちの医療支援とか、それからがんを使うその薬とかを運んだりしています。

かわいそうなのが、「STOP WAR」ってこういうのをみんなが持っているんですけど、本当にこの子たちの命がかかっていて、例えば酸素とかささやかなものが切れてしまっただけでもこの子たちは命が途切れてしまうので、戦争というのは本当に弱い立場の人たちを根こそぎにしようかなかなか厄介なものです。

I V Y は今、9州で今活動しています。だいたい東、北部、それから南、西というので、真ん中はないんですけど、9つの州で今活動させていただいています。

難民の方がたくさん逃げてこられるということで、スロバキアと国境の間に山があるんですけど、山越えをして国境を超える人たちのためにテントとか宿泊所と飲食の提供、それから医療物資の提供なんかをさせていただいています。あと子どもたちも、心のケアといことで遊んだり、ゲームをしたり、つらかったことを絵に描いてもらってお話をしたりとか、こういう活動もしています。

医療のほうなんですけれども、いろんな必要な薬を提供しようということで、医薬品を届ける活動を開始しました。避難民の人は遠慮して病院に行かないんです。地元で迷惑をかけるのが嫌だと言って。すると糖尿を患ってる人がどんどん悪化したりとかもあるので、特に慢性疾患とか、がんの人とか、妊婦さんとか、そういう方が遠慮しないで行けるようにということで医薬品を届けに行きました。他に、ウクライナの16の病院に超音波とかも届けました。それから保育器も、停電でも使用できる最新の保育器というのを今届けているのですが、1台だけ、物流が今滞っていてまだ届かないというのがあるので、この事業はずっと延長しています。

私どもの支援は3月ぐらいから始めていたんですね。それはイラクで同じだったスロバキアの団体と手を組むことができたというか、それからそのスロバキアの団体がウクライナ人の医師もメンバーに加えていたということで、医療の許可とか薬の持ち込みの許可とか、いろんな薬事法にとか、いろんなことの許可が早かったんですね。それで政府の許可も大丈夫だったので、そういうネットワークが生かされたということです。

応急手当はその激戦地の隣で行う、という態勢を整えております。応急手当の対応者養成ということで、医療器材等の支援をしています。主に外科医の先生方に対して行われているんですけども、手足を吹き飛ばされたり、重篤なけがの方がたくさん運ばれてくるので、その方を救命で助けるという手術のやり方をトレーニングをするということでやっています。アメリカから輸入したんですけども、切ったいろいろな手術の練習ができるマネキンがあることも、私どもも知りました。それでイタリアから医師を招いて専門家の人が指導したり、来られないお医者さんにはオンラインでその研修が受けられるような体制を整えたりしています。あと、心理的応急処置というか、非常に精神的にだんだん皆さん病まれているとか、心の健康が悪くなっている方もおられるので、その処置とかをしたり、医学生を対象に応急手当、血を止めたり、呼吸をなんとかしたりとか、救急搬送する時の担架でも、血がドバっと出ていても動揺しないでちゃんと無事に病院まで運ぶ練習とか、草むらだったりするので、その対応とか、そういう応急手当ができるようなトレーナーの育成もしております。

西側の避難民の方なんですけど、遠慮して行かないとか、病院が遠かったりするので、巡回医療チームを作って巡回医療をしています。公民館などを借りて、近くの公民館に来てもらうというようなことをしております。

スロバキアでもお母さんと子どもの人たちが逃げているのですが、政府から4万円ぐらいの補助が出ている時もあったりすれば、途切れたりもするんですね。なのでそれだけでは食べていかれないお母さんやお子さんもおられるので、現金の給付をしたりするような活動をしています。あとは語学教室ですね。スロバキア語とか英語クラスとかの提供をしたり、職業訓練などをしようとしているところです。

以上で私どものウクライナにおける医療支援活動について説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。



本日出席 (1 / 23)	会員総数	出席会員数
	100名	60名 (Zoom参加 10名含む)